

(3) 戦争遺跡等追体験ルート整備事業（ハード）

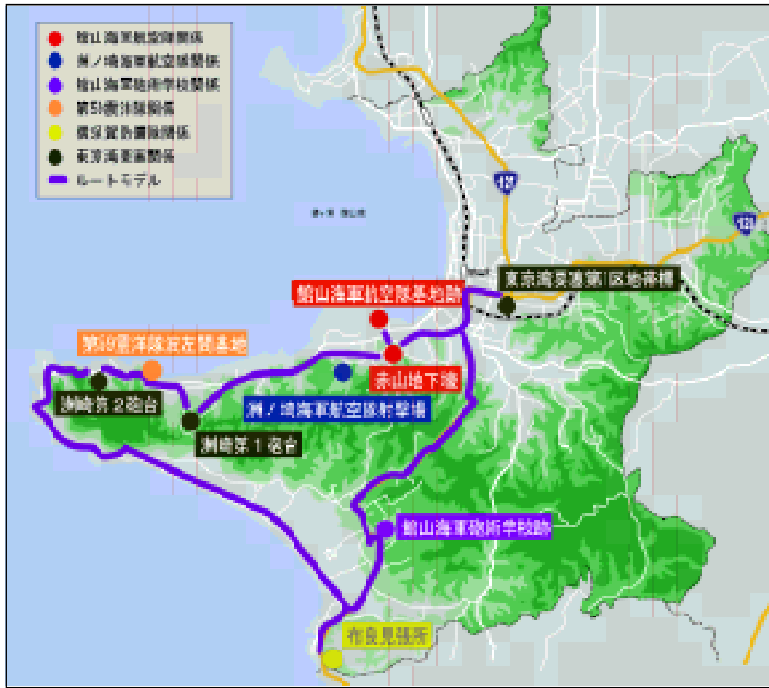
<p>目 的</p>	<p>戦争遺跡を組み入れた " 追体験型 " の観光・学習ルートを整備することにより、利用客にとっては動きやすさの条件を整えるとともに、地域にとってはルート上に観光客などを乗せることにより、滞留性を高め域内波及効果の拡大を狙いとしたものである。</p> <p>さらに、戦争遺跡を介した広域的な取組により、地域間の相互交流の創出効果を狙いとするものでもある。</p>									
<p>方 向</p>	<p>ルートとは、基本的には「時間（空間的広がりも含めて）」と「テーマ」によって構成されるものである。</p> <p>即ち、本市が有する戦争遺跡の資源を核に、市内の他の資源（例えば花、食、歴史等）との組み合わせや、特にソフト面では周辺地域さらには東京湾～全国・世界域までの広がりを持った展開が考えられ、整備の枠組みは次の3つである。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>ルートづくり</p> </div> <p>想定される利用客層にマッチした様々な体験ルートづくりを行う。（市内及び広域）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>ルート上での基盤等の環境整備</p> </div> <p>ルート上の案内板や休憩機能の整備やルートとしての魅力を醸し出す沿線の環境整備を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>ルートを構成する地域間における連携体制づくり</p> </div> <p>ルートを形成する上でも、またルートを認定した後の運用を適切に図っていくためにも、関連する地域間の連携体制づくりを行う。</p>									
<p>内 容</p>	<p>ルートづくり ルートづくりは次の枠組みで構成される。</p> <table border="1" data-bbox="363 1397 1374 1576"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>短時間～中時間 （市内～周辺地域）</th> <th>中時間～長時間 （周辺地域～広域）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>戦争遺跡単独テーマ</td> <td>A</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>複合テーマ</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </tbody> </table> <p>Aルート：市内の戦争遺跡を中心にルートによっては大房岬等の周辺地域を組み入れる。</p> <p>Bルート：房総半島全体、あるいは東京湾一帯等の戦争遺跡によるルートづくりを行う。また、小笠原、広島、沖縄といった全国的なスケールでの連携も考えられる。</p> <p>Cルート：主として館山市内及び隣接地域での広がりの中で、花・歴史・食等の他の資源を組み入れたルートづくりを行う。</p> <p>Dルート：例えば東京湾一周あるいは房総半島一巡り観光といった観光ルートの中に戦争遺跡を組み入れる。</p>	区分	短時間～中時間 （市内～周辺地域）	中時間～長時間 （周辺地域～広域）	戦争遺跡単独テーマ	A	B	複合テーマ	C	D
区分	短時間～中時間 （市内～周辺地域）	中時間～長時間 （周辺地域～広域）								
戦争遺跡単独テーマ	A	B								
複合テーマ	C	D								

内 容	<p>また、対象となる客層としては、次のようなものが想定される。</p>					
	利用対象客層		ルート（コース）づくりのポイント			
	一般客	家族連れや若者	イチゴ狩りや海水浴のついでに立ち寄るパターンが想定され、インパクトのある遺跡や短時間で回ることができるコース設定が必要。			
		中高年	平和学習への関心も高く、テーマ毎あるいは学習時間に併せたきめ細やかなコースづくり等が必要。			
	学校関係	一般体験学習団体	修学旅行・研修旅行等のついでに戦争遺跡も見学するパターンが想定され、短時間で印象に残るようなコースづくりが必要。			
		平和学習目的団体	来訪前の事前学習時点からの対応と、現地におけるインストラクター対応等、じっくり・学習型のコースづくりが必要。			
	館山市民		市民にとっては、自分の住んでいるまちの歴史を学ぶという生涯学習的側面を持つと同時に、来訪客への案内やガイド的な対応のための事前学習という性格を持つため、戦争遺跡のみならず、里見氏の歴史など館山全体の歴史を学べるようなコースづくりが必要。			
	<p>先に示したルートと客層との主たる関係は次のように想定される。</p>					
	区分		戦争遺跡単独テーマ		複合テーマ	
			A	B	C	D
一般	家族連れや若者 中 高 年					
学校	一 般 平 和 学 習 目 的					
市民						
		対応度大	対応度中	対応度小		
<p>ルート上での基盤整備等の環境整備</p> <p>ルート上での基盤整備などを進めていくための基本的な手順は次のものである。</p>						
資源、交通路、休憩スポット、宿泊滞在拠点との関連でのルートの検討		実際に現地調査を行い、マップ上の表示と案内・誘導標識等の適切なシステム化の検討		観光ルート上の沿道修景や休憩サービス機能への配慮と移動手段の検討		
<p>ルートを形成する地域間における連携体制づくり</p> <p>特に周辺地域や広域ルートを整備していく上においては、日常的に相互の地域特性や事情、あるいは今後の計画などを含めて把握しておく必要がある。</p> <p>そのような下地づくりが、ルートづくりにおいて相互に調整しあい、また相互に効果を共有しあえるものとなる。</p>						

事業推進 の考え方	<p>まずは、対象となる戦争遺跡の状況を実査し、案内板、休憩機能、トイレ、駐車場等の必要の有無をチェックする。</p> <p>次の段階として、客層別の観光ルートのパフレットづくりとPR展開をおこなう。</p> <p>また、それと平行して、特に広域的なルート形成については、関係地域との連絡調整やルートづくりに向けた企画検討をおこなっていく。</p> <p>さらに、このルートをアピールするため、交通機関や関係地域とのタイアップでの「ルート巡りイベント」等のソフト事業を展開する。</p>
--------------	---

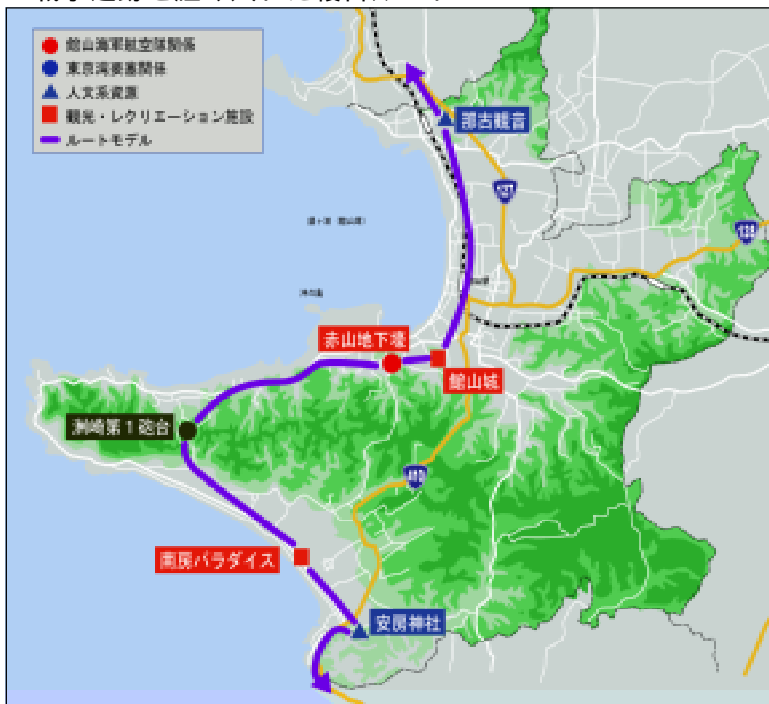
図表7-3 戦争遺跡等追体験ルート例

戦争遺跡単独ルート



- 赤山地下壕
- 館山海軍航空隊基地跡
- 洲ノ崎海軍航空隊射撃場
- 洲崎第1砲台
- 第59震洋波左間基地
- 洲崎第2砲台
- 布良見張所
- 館山海軍砲術学校跡
- 東京湾要塞第1区地帯標

戦争遺跡を組み入れた複合ルート



- 那古観音
- 館山城（館山市立博物館）
- 赤山地下壕
- 洲崎第1砲台
- 南房パラダイス
- 安房神社

(4) 戦争遺跡等ガイド養成事業（ソフト）

<p>目 的</p>	<p>近代戦争遺跡についての正しい情報を深く解説して市民の平和学習や歴史追体験観光の効果を上げ、人的なコミュニケーションニーズにもこたえる。</p>
<p>方 向</p>	<p>市民の平和学習をはじめ学習旅行や深まる歴史観光ニーズへの対応を目的に、戦争体験者をはじめとして市民の平和学習グループ、歴史学習グループ、専門家などを結集して本市の戦争遺跡のガイド（インタープリター）を養成し、体験学習プログラムと連携して戦争遺跡の意味や意義の周知を図る。</p>
<p>内 容</p>	<p>戦争遺跡ガイドの養成の仕組みは次のように考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生涯学習講座に「戦争遺跡学習講座」を開設。 戦争遺跡学習・解説の手引きを作成 フィールドワーク（研修）の実施 一定期間研修で「戦跡ガイド（ボランティア）」認定 「戦跡ガイドバンク」へ登録 観光協会との連携（事務局設置も検討） <div style="text-align: center;"> </div> <p>沖縄県観光ボランティアガイド友の会の例（事務局所在地：豊見城市）</p> <ul style="list-style-type: none"> 概要：沖縄県による、観光ボランティア養成講座修了者で組織している。沖縄戦史（沖縄県史等）に準じて、激戦地や壕などの現地紹介、及び戦争体験者などによる当時の惨状を説明している。 会員：75名 案内：沖縄市内から南部戦跡・世界遺産案内 電話 / FAX：13:00～17:00（土・日・祝祭日を除く、FAXは終日） 料金：ポイントガイド5,000円、バス同乗、講話10,000円 <p>（資料：「地域紹介・観光ボランティアガイド組織一覧」（社）日本観光協会）</p>
<p>事業推進の考え方</p>	<p>市教育委員会が、地域内戦争遺跡案内者、郷土史家と外部の戦争遺跡や歴史研究者などを指導者として、中央公民館ふるさと講座専門コースに「戦争遺跡学習講座（仮称）」を開設し、期間研修制度で認定して「戦跡ガイド」を育成する。</p> <p>「戦跡ガイド」は、学校などの教育機関と連携して総合学習などに対応するとともに、観光協会とタイアップし、体験観光プログラム（現行、新規）に組み入れて活用を促進する。</p>

(5)「平和学習」等体験学習プログラム整備プロジェクト(ソフト)

<p>目 的</p>	<p>体験学習プログラムを通して戦争遺跡の理解を促進し、平和学習の効果や歴史体験の魅力を高める。</p>
<p>方 向</p>	<p>戦争遺跡の意味や意義を、個々人が自分の価値観で学べるように、戦争遺跡の種類、時代区分、構築技術などから詳しく情報提供を行い、市民の平和学習、小・中学校の総合学習、その他学習旅行などの意義を高めるとともに、歴史体験観光などのプログラムとして体験観光需要に対応する。</p>
<p>内 容</p>	<p>新規の“「平和学習」等体験学習プログラム”を開発する。</p> <div style="display: flex; align-items: center; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px; text-align: center;"> <p>「平和学習」等 体 験 学 習 プ ロ グ ラ ム</p> </div> <div style="margin-left: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> — 構築時代別戦争遺跡学習プログラム — 遺跡系統別学習プログラム 館山海軍航空隊、洲ノ埼海軍航空隊、館山海軍砲術学校、 第59震洋関係、横須賀防備隊関係、第2海軍航空廠館山補給工場関係、横須賀軍需部館山支庫関係、東京湾要塞関係 遺跡系統別 — 戦闘・防衛・兵站等機能別学習プログラム — 要塞立地と地域生活学習プログラム 等 </div> </div> <p>既存の「体験観光プログラム」との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現在の体験観光プログラムに、公開可能な戦争遺跡を逐次体験観光プログラムに取り入れる。 <p>戦争遺跡等ガイド(インタープリターを含む)システムとの連携(主要事業「戦争遺跡ガイド育成事業」参照)</p>
<p>事業推進 の考え方</p>	<p>市が中心となり「(仮称)戦争遺跡を活かした体験学習プログラム検討会議」の設置を働きかける。</p> <p>* 戦争体験者、戦争遺跡ガイド、行政(生涯学習、観光所管課等)、観光協会、宿泊・飲食・土産品等受け入れ施設、戦争遺跡研究者、郷土史家等による学習プログラム検討会議の立ち上げ。</p> <p>体験プログラムを、学習需要及び歴史観光・交流需要と連結させるための情報ツールやビデオを作成する。</p> <p>体験学習、歴史観光や交流を軸としたHPなどでの情報提供を強化する。</p>

図表 7-4 平和学習プログラムの例

区分		内容
ひめゆり 平和祈念資料館	座談会の開催	開館5周年を記念し、「次の世代へ平和をどう伝えていくか」をテーマに県内の学識経験者、平和研究者、平和活動実践者、平和教育実践者による座談会を開催した。座談会では、資料館の今後の在り方だけでなく、平和思想を次世代へいかに伝えていくかという全社会的な課題に関して様々な意見や提言が出された。
	ビデオ上映会の開催	開館5周年を記念し、「平和への祈り - ひめゆり学徒の証言 - 」と題してビデオ上映会を開催した。このビデオは、沖縄戦でのひめゆり学徒隊の全容を映像記録として後世に伝えようと、開館5周年の節目に制作されたもので、元ひめゆり学徒隊の生存者の証言と米軍撮影映像資料を織り交ぜながら沖縄戦の経過と学徒隊の足跡がまとめられている。現在は同ビデオの短縮版の貸し出しがなされている。
	「平和祈念コンサート」の開催	開館十周年を記念し、平成11年6月に摩文仁の平和祈念堂において開催された。
	ガイドブックの刊行	総合案内ガイドブックとして開館の年以来、発行している（下左写真）。元ひめゆり学徒隊の証言のほか展示資料などが紹介されている。英語版も刊行している。
	感想文集の刊行	来館者の感想文の中から選定したものを1年毎に1冊の感想文集にまとめて、刊行している（下右写真）。文集は県内各学校、平和施設等に頒布され、平和学習に役立てられている。
沖縄県平和祈念資料館	「児童・生徒の平和メッセージ事業」	沖縄県では、太平洋戦争において、多くの尊い命や貴重な文化遺産を失った。これら悲惨な経験を風化しないために、児童・生徒のみずみずしい感性で表現した平和に関する「絵画・作文・詩」を募集し、これらの作品の展示をとおして多くの人に「平和メッセージ」を発信している。
	「夏休み子ども企画」	県内の小中学生を対象として、総合的な学習及び自由研究に関する資料紹介（沖縄戦、太平洋戦争、環境人権問題、国際理解等）や、戦争・平和に関するビデオの上映会の開催等により平和学習や自由研究のテーマの手助けを行っている。
	「平和のつどい」	一年の節目として、その年に来館した方や見学に訪れた児童・生徒から寄せられた折り鶴に火をともし、折り鶴に込められた一人一人の平和への願いと与えられた命に対する感謝を県内外に発信する機会としている。
	“資料館だより”の発行	資料館だよりの発行（年2回）をとおして、資料館の事業活動や役割を多くの人に伝えるとともに、様々な平和学習の在り方を紹介している。
	“資料館学習の手引き”の発刊	資料館を利活用した平和学習を考える教育者の手助けとなるよう“資料館学習の手引き”を作成・発刊している。平和学習が効果的に進むよう展示毎に内容の捉え方・視点を明示している。

(6) 戦争遺跡情報受発信システム整備事業(ソフト)

<p>目 的</p>	<p>戦争遺跡の学習、歴史観光への活用のための情報ツールの整備や平和学習都市としての情報戦略の仕組みを高めて、まるごと歴史都市、平和学習都市としてのイメージアップと交流を促進する。</p>
<p>方 向</p>	<p>戦争遺跡を地域学習、平和学習に活かすとともに、歴史観光・交流に活かすための戦争遺跡マップをはじめとする情報ツールやマルチメディアによる遺跡のデジタル情報化などを強化する。一方、世界の戦争遺跡や要塞、日本3大砲台の地などと連携した情報戦略を展開し、東京湾の入り口に立地した平和学習都市としてのイメージ形成を進める。</p>
<p>内 容</p>	<p>戦争遺跡に関する情報受発信、戦跡の縁を活かした世界レベルを視野に入れた情報受発信、交流促進の内容を次のように設定する。</p> <div style="margin-left: 40px;"> <p>情報受発信の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> → 戦争遺跡の悉皆調査による台帳の作成と客観的な評価、内容の情報化 → 戦争遺跡の電子情報化と情報公開（バーチャル戦跡資料館、東京湾要塞都市HPリンク等） → 戦争遺跡情報ツールの整備（戦跡マップ、パンフ、ビデオ、戦争体験記録、戦跡写真集等） → 観光交流と連携した利用促進方策の展開（戦争遺跡体験プログラム、国際平和フォーラム等） → 戦争遺跡都市交流ネットワークの形成（東京湾要塞、日本3大砲台連携等） → 戦争遺跡保存活用基金（遺跡保存、平和学習等に使用） </div> <p>「平和基金」の例（藤沢市） 藤沢市は「藤沢市核兵器廃絶平和都市宣言」の主旨を活かして平成元年に「平和基金」を設立。5億円を目標に、市民、企業、団体などから寄付金を募っている。基金の果実では平和ツアー、講演会、平和に関する研究会、啓発資料の作成、用法収集等（藤沢市ホームページより要約）。</p> <p>ヨハン・ガルトゥング平和フォーラム（三鷹市） 三鷹市は平和学の世界的権威・ヨハン・ガルトゥング氏提唱の「積極的平和」（平和を戦争に対峙する平和だけではなく人権や環境問題など広義に捉える考え方）を取り入れて国際基督教大学と共催で市制100周年事業としてフォーラムを開催。「市民・自治体は平和のために何ができるか」とうテーマで議論が進められている。 資料：「市民・自治体は平和のために何ができるか」（三鷹市・ICU社会科学研究所（国際書院発行）より要約）。</p>

<p>事業推進 の考え方</p>	<p>情報受発信の主体は多岐にわたるが、当面、戦争遺跡の保存・活用の先導的な対応として行政が戦争遺跡台帳、遺跡マップなどの基盤的な情報ツールや仕掛けを行い、市民の平和に対する理解の推進を誘導する。</p> <p>特に、市内の学校の総合学習や学習旅行への対応、歴史観光を含む体験観光の誘致との関連では、来訪を希望する学校、団体があることなどから、観光協会とのタイアップによる情報提供を促進する。</p>
----------------------	--

